

教育

edu@asahi.com

木曜～日曜掲載

進む部活委託 読めぬ効果

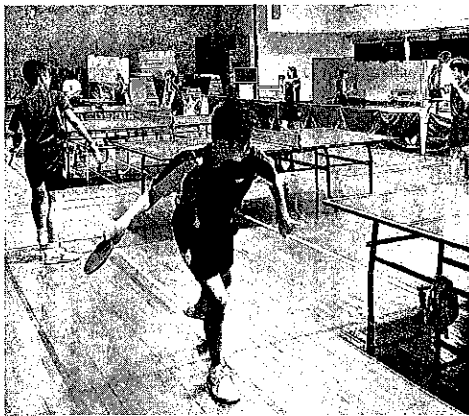
生徒の部活動を先生が見るのではなく、民間業者に委託する取り組みが、今月下旬から大阪市の公立中学校の一部で始まった。教員の負担軽減やプロのコーチの指導による生徒の技術向上が主なねらいだが、どれほどの効果があるのか。教員や生徒の間では、期待と不安が交錯する。

大阪市でも導入

大阪市立の中学130校のうち、対象は8校8部活。サッカーやバレーボールなどの運動系だけでなく、文化系の吹奏楽部でも実施される。初年度の今年は2学期から始まり、来年3月末まで120回、週6日が上限だ。委託中、顧問の教員は部活に立ち会う必要はないが、顧問の立場にはそのまま残る。

7月末に決まった業者は、子ども向けのスポーツ事業を展開する民間会社など4団体。学校側との連携について話し合いが進み、すでに生野区の勝山中学校吹奏楽部に外部指導者が派遣された。

平野区の平野中学校は男女計30人ほどの卓球部にプロコーチが来る。顧問は2年前の春から、未経験者の女性教諭(30)が務めている。日本で



練習に励む大阪市立平野中の卓球部員たち=17日、大阪市平野区背戸口

指導者と顧問 役割分担重要

早稲田大学スポーツ科学学術院の作野誠一准教授(体育・スポーツ経営学)の話 部活動は教育活動の一環であり、外部への丸投げになってはならない。外部指導者の多くはその道のプロであっても、教育のプロではない。集団における振る舞いなど部活動に期待される教育的側面にどう応えるか。顧問教諭とどう連携をとって指導にあたるか。外部指導者と顧問教諭との明確な役割分担と相互理解が、成否を分けるポイントになる。

「強くなるなら」歓迎 ■ 「ついていけるか」不安

「ルは学べても、技術指導まではできない。ずっと生徒に申し訳ない気持ちだった。負担が減るからではなく、生徒が技術指導をきちんと受けられるのがうれしい」と話す。

生徒はどう受け止めているのか。中2の男子生徒は「強くなれるならいいと思う」と歓迎するが、中2の女子生徒は「急に厳しくなったら怖い

東京・杉並 9割「顧問の負担軽減」

東京都杉並区は大阪市に先駆け、13年度から土日限定で試験的に導入している。9校20部活で始まったが、現在は12校24部活まで広がっている。

区立向陽中学校のバスケットボール部は導入3年目。夏休みの今は、20年近い競技歴のあるコーチから指導を受ける。男子の主将、2年生笠井太智君(18)は「技術的なことをわかりやすく教えてくれる」。2年石田彩生さん(14)の母江さん(38)も「平日と違って、コーチのいる休日はみんな声が出て活気がある。娘は指折り数えて土日に来るのを楽しみにしています」。

区教委が昨年、実施11校にアンケートしたところ、回答のあった校長・副校長・顧問教諭43人のうち9割以上の40

ていけるか。不安もありません」と打ち明ける。

導入にあたり、同校は保護者を開催。土日については当面、顧問教諭も顔を出す。が、いざいざ負傷などの事故に備えた立ち会いを保護者らで担ってもらおう。「運営には保護者の理解と協力が不可欠。外部指導者を含め情報交換を綿密にしていく」と渡瀬剛行校長。

市教委は今年度末、8校に「教員の負担軽減」「生徒の満足度」などをアンケートで尋ね、対象の部活を増やすかどうか検討する。

人が「顧問の負担軽減が図られた」、生徒406人のうち8割近くの316人が「民間コーチの指導でうまくいったと感じる」と答えた。来年度は各校の希望に応じ、実施の拡大を検討するという。

ただ、課題も少なくない。土日は原則として顧問教諭が休み、地域ボランティアや保護者が立ち会おうが、「仕事をしている親も多スケジュール調整が難しい」との声も。「校内での指導」という契約のため、対外試合はプロコーチ不在だ。生徒からは「試合の時もいてほしい」という要望があるという。

杉並区で実績のある「スポーツターバンク」(東京)は、大阪市でも卓球部やバレーボール部など4部活を担う。石塚大輔取締役によると、関東・関西の私立中学校からも依頼があり、コーチを派遣している。「部活動の民間委託は発展途上の段階で、改善の余地はたくさんある。影響力のある大阪で成功することが全国に広がる力になると思う」と話す。

(長野佑介)